

挑む!

iPS細胞の謎に迫る京大特定助教

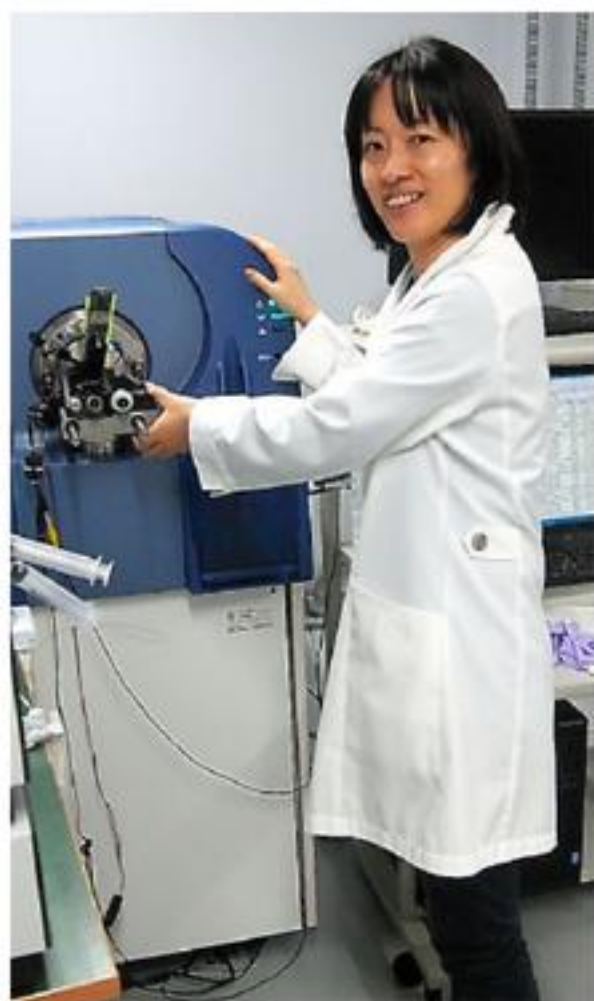
岩崎 未央さん(33)

不死の秘密にたどりつきたい

iPS細胞の特徴は無限に増えることと、死なないこと。その不死の秘密につながる研究に取り組む。

小学生のころに生まれた姪は目が不自由だった。「なぜ目にだけ障害が出るのか」。医者よりも、病気の原因に

迫る科学者に魅力を感じた。中学生のころ、生命の基本原理「セントラルドグマ」を知り、魅了された。遺伝子の原本DNAから、必要な情報を書き写したRNAを介し、たんぱく質ができる——。地球上のあらゆる



慶応大環境情報学部卒。京大の薬学研究科で博士号。2017年から現職。松山市の実家はサッカー用品専門店。幼稚園から大学までサッカーをやった。

る生き物に共通の原理だ。

京大 iPS細胞研究所で、RNAからできるたんぱく質の量を調べる。

以前は、RNA 1個からつくられるたんぱく質の数は「ほぼ一定」と考えられていた。実際は、たんぱく質や細胞の種類によって大きく違っていた。さらに iPS細胞の場合、つくられる数が多いたんぱく質は、細胞の長生きにかかわるものであることを突き止めた。研究が進めば、不死の秘密にたどりつくかもしれない。

ノーベル医学生理学賞受賞者の本庶佑さんと同じく、生命の謎解きに熱中するタイプ。だが、研究所は医療応用に重点を置く。「特定のたんぱく質がつかれない病気の治療などに、役立つかもしれない」。研究は患者のためにもなると強調するのを忘れない。

文・写真 鍛冶信太郎

記者から

かなり難しい基礎研究。だが、ノーベル賞はこういうゴールの見えない研究から生まれる。